

天下分け目の地 関ヶ原を歩いて感じる

関ヶ原合戦 史跡めぐり

史跡めぐり 推奨ルート

11	宇喜多秀家陣跡	10	小西行長陣跡	9	開戦地	8	島津義弘陣跡	7	石田三成陣跡	6	決戦地	5	黒田・竹中陣跡	4	細川忠興陣跡	3	田中吉政陣跡	2	徳川家康最後陣跡	1	歴史民俗資料館
15分	1km	9分	0.6km	6分	0.4km	12分	0.8km	5分	0.3km	18分	1.2km	11分	0.8km	10分	0.6km	1分	0.1km	3分	0.2km	3分	0.2km
1	歴史民俗資料館	21	東首塚	20	松平・井伊陣跡	19	本多忠勝陣跡	18	西首塚	17	藤堂・京極陣跡	16	福島正則陣跡	15	脇坂安治陣跡	14	大谷吉継陣跡	13	大谷吉継墓	12	平塚為広碑
6分	0.4km	12分	0.8km	12分	0.8km	3分	0.2km	6分	0.4km	15分	1km	30分	2.1km	5分	0.3km	8分	0.5km	8分	0.5km	8分	0.5km

距離：約13km 所要時間：徒歩3時間半

*時間と距離はおおよその数値で記してあります *表記の時間は徒歩での移動のみで、散策を含みません

- 00 東軍
- 00 西軍
- 00 反応軍
- 00 その他
- 自転車通行可 (車両不可)
- 徒歩のみ (自転車・車両不可)
- 推奨ルート
- トイレ
- 駐車場
- 歩道橋

A 桃配山周辺

23 徳川家康 最初陣跡
歴史民俗資料館から2.5km 徒歩約25分

24 山内一豊 陣跡

B 松尾山周辺

22 小早川秀秋 陣跡
山麓駐車場から約2km 高低差約200m 徒歩40分

15 脇坂安治 陣跡

広域地図

関ヶ原合戦史跡めぐり 推奨ルートエリア

A 桃配山周辺

B 松尾山周辺

大森

天下分け目の関ヶ原を
知るために重要な史跡

関ヶ原合戦を知る。

歴史を学べる家紋はんこ帖

家紋はんこ 設置場所

関ヶ原町歴史民俗資料館
4月～10月 9:00～16:30
11月～3月 9:00～16:00
(月曜・祝翌日休)

関ヶ原観光案内所(関ヶ原駅前)
9:00～14:00
(11月中旬～3月は休み)

関ヶ原町役場
8:30～17:00(平日のみ)



1 関ヶ原町
歴史民俗資料館

合戦に関する武器や「関ヶ原合戦図屏風」などを展示。合戦の流れがわかる大型ジオラマは必見だ。隣接するミュージアムショップでは、武将グッズや土産品を販売。レンタサイクルも受付中。



2 床几場
徳川家康 最後陣跡

桃配山から動いた家康が、最後に陣を置いた場所。ここから松尾山の小早川秀秋に向けて発砲を命じたと言われている。合戦後には床几場で引見が行われ、武士たちが討ち取った敵の首級が実検された。



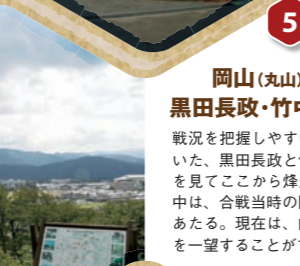
3 田中吉政 陣跡

ここから笹尾山の石田隊に向かって兵を進め、笹尾山麓から討って出る先手の兵と激突。最後、敗走した石田三成を捕らえたのも、吉政である。



4 細川忠興 陣跡

細川忠興は黒田長政と共に石田三成の本隊と激闘を演じ、首級を136上げたと言われている。この陣跡碑は2012年3月に設置され、関ヶ原に戦後初めて設置された陣跡碑になります。



5 岡山(丸山)烽火場
黒田長政・竹中重門 陣跡

戦況を把握しやすい高台に陣を置いた、黒田長政と竹中重門。戦況を見てここから烽火を上げた。竹中は、合戦当時の関ヶ原の領主にあたる。現在は、山頂から関ヶ原を一望することができる。



6 決戦地

小早川の寝返りにより東軍優勢となり、西軍の敗北が見えた関ヶ原合戦。三成の首を狙う東軍諸隊が笹尾山を目標に突進したことにより、ここで激戦が繰り広げられたと言われている。



7 笹尾山
石田三成 陣跡

関ヶ原を一望できる笹尾山に本陣を置いた石田三成。5分ほどで登れる展望台からは、三成が見たであろう景色を望むことができる。麓には竹矢来・馬防柵が復元され、鳥左近の陣跡がある。



8 島津義弘 陣跡

神明神社の裏側に、得意の鉄砲で次々と敵を狙撃した島津義弘隊の陣跡がある。小早川の寝返りで戦況が一変すると、島津隊は東軍の中央を敵中突破し、見事伊勢街道への脱出に成功する。



9 開戦地

決戦の朝、霧が薄くなった8時頃、松平・井伊隊が動く。先鋒の福島隊の脇を通り抜けて発砲。これに怒った福島正則が、宇喜多隊に対して一斉射撃をしかけたのがこの場所だと言われている。



10 北天満山
小西行長 陣跡

合戦開始とともに北天満山から烽火を上げて味方に開戦の合図をした小西隊。午後になり、大谷隊が敗れたとの知らせを受け、山を越えて損傷方面へ敗走。現在は西田運動広場付近にあたる。



11 南天満山
宇喜多秀家 陣跡

うっそうとした天満神社の境内に、1万7千という西軍の主力部隊の副総帥として参戦した宇喜多秀家の陣跡がある。開戦直後に攻め込まれ、激しい戦いとなった場所だと言われている。



12 平塚為広 碑

関ヶ原の隣、美濃垂井を治めていた平塚為広は、合戦当日、いちちはやく関ヶ原へ。盟友・大谷に代わり、両軍を指揮したとも言われている。碑は平塚家8代為忠の次男、定二郎によって建立。



13 大谷吉継 墓

大谷吉継の首を埋め隠した湯浅五助。それを藤堂仁右衛門に見えられ、自らの首とひきかえに他言を阻止し、供養を託した。敵ながら感心した藤堂が、合戦後に墓を建てたと言われる。隣には五助の墓が建つ。



14 大谷吉継 陣跡

三成の盟友・大谷吉継は、病身を押し参戦。三成への「義」を買った。予想していた小早川隊の寝返りにも動じず応戦するが、配下の脇隊の攻撃により軍は混乱。あえなく自害した。



15 脇坂安治 陣跡

脇坂安治は、朽木隊・小川隊・赤座隊と共に、西軍として松尾山の麓に陣を取った。松尾山の小早川隊が寝返ると、4隊ともそれに反応し、大谷隊へ攻撃。東軍の勝利に貢献した。



16 福島正則 陣跡

福島正則は、三成に対立して東軍へ加担。開戦すぐ宇喜多隊を突く。現在、碑が建つ春日神社境内には、合戦図屏風に描かれた樹齢800年の「見見の宮大杉」がどっしりとそびえ立っている。



17 藤堂高虎・
京極高知 陣跡

藤堂高虎・京極高知の両隊は、福島隊に続いて東軍左翼部隊の第2陣として進軍。開戦後は不破陣跡付近まで進撃し、平塚為広と交戦した。現在、碑は関ヶ原中学校の敷地内に建っている。



18 西首塚

当時の領主・竹中重門が、家康の命令により兵士たちを埋葬した地。現在は小さい塚だが、当時はかなりの規模だったと言われている。手前の御堂には、千手観音と馬頭観音が安置されている。



19 本多忠勝 陣跡

三方ヶ原・長篠の合戦で数々の功を上げた本多忠勝。勇猛なだけでなく、知略も備えた名将だ。関ヶ原合戦では軍監として参戦。島津隊へ進撃し、西軍武将の切り崩しにも努めた。



20 松平忠吉・
井伊直政 陣跡

東軍先鋒は福島隊と決まっていたが、福島隊の制止を振り切って宇喜多隊へ発砲したのが松平・井伊隊。その後、島津隊を迫撃して大きな戦果を挙げるが、2人とも大ケガを負ってしまう。



21 東首塚

朱色の門を抜けると、奥にスタジオの大木がそびえ立つ。合戦後、戦死した兵士たちを、東首塚と西首塚、2カ所に埋葬したと言われる。埋められている戦死者の数は定かではない。



22 松尾山
小早川秀秋 陣跡

1万5千もの大軍を待機させていた小早川秀秋は、当時若く19歳。家康から鉄砲を撃ち込まれ、ついに西軍を裏切り、東軍を勝利に導く。現在、山頂からは古戦場を眼下に眺めることができる。



23 桃配山
徳川家康 最初陣跡

3万もの大軍を桃配山に置いて指揮をとっていた徳川家康。しかし、11時頃、一進一退の戦況に奇立ち、陣を動かす。合戦時に家康が使ったと言われる腰掛石と机石が今も残っている。



24 山内一豊 陣跡

旧山中道沿いの松並木を進んでいくと、南宮山の麓に備えて陣を置いた山内一豊の陣跡がある。一豊は大きな武功はないが、掛川城を率先して空け渡して家康の信頼を得たため、土佐の国主となった。



25 奥平貞治 墓

家康の意を受け、小早川隊の監視をしていた奥平貞治。小早川隊の寝返り後は軍の先頭に立ち、大谷勢と奮戦するが、戦死してしまう。墓は1864年10月に子孫の奥平新左衛門源貞昭により建立。



26 島津豊久 碑

旧伊勢街道沿いの林の中に、島津豊久の碑が建つ。当主であり叔父にあたる島津義弘を救うべく、その身代わりとなって討ち死にした豊久。義弘への多大な恩義が感じられる。



27 不破関 資料館

672年に起きた「壬申の乱」と、古代の関所について学ぶことができる資料館。関所跡から出土した貴重な土器類や、当時の兵士像の展示、不破関を復元したジオラマなどを常設。